

1. 法然 2. 行基 3. 空海 4. 鑑真

1. 平氏一族が権力を握り、厳島神社の造営など貴族的な文化が華開いた。	2. 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色をもつ。	3. 国学や蘭学が発達し、庶民の間でも読み・書き・算盤が普及した。	4. 武士の台頭を背景に、力強く素朴な気風をもった文化が全国的に広まった。
-------------------------------------	---	-----------------------------------	---------------------------------------

1. 大宰府の役人として採用され、大陸からの使節を接待する役割を担った
2. 朝廷に直接仕える近衛兵として、都の平城京の警護を専門に行った。
3. 朝鮮半島から移り住んだ渡来人によって組織され、東北地方の蝦夷を鎮圧した。
4. 主に東国の農民から選ばれ、国防の重要拠点であった九州北部の警備にあたった。

1. 万葉仮名を用いて、天皇から防人・農民まで幅広い階層の人々が詠んだ歌をまとめた。
2. 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。
3. 律令制度に基づく税の徴収を目的として、各地の戸籍や土地の面積を詳細に記した。
4. 天皇の系譜や国家の成り立ちを、神話や伝説を交えて年代順に体系化した。

1. 口分田 2. 墾田 3. 名田 4. 位田

1. 古今和歌集 2. 懷風藻 3. 新古今和歌集 4. 万葉集

1. 日本書紀 2. 風土記 3. 万葉集 4. 古事記

1. 天武天皇は、律令国家の仕組みを整えるとともに、仏教を広めるため行基を大僧正に任じて大仏を造らせた。	2. 推古天皇は、聖徳太子の補佐を受けて仏教を厚く保護し、地方の豪族に命じて国分寺を建立させた。	3. 桓武天皇は、仏教勢力の政治介入を避けるために都を平安京へ移し、全国に国分寺を建立した。	4. 聖武天皇は、仏教によって国家の安泰を願うため、平城京に東大寺を建立し、全国に国分寺を設けた。
--	--	--	---

1. 地名の由来や、古くからその地域に伝わっている伝説

1. 万葉集・風土記 2. 源氏物語・枕草子 3. 古事記・日本書紀 4. 平家物語・太平記

1. 小野妹子 2. 菅原道真 3. 藤原道長 4. 聖德太子

1. 法隆寺金堂 2. 正倉院 3. 平等院鳳凰堂 4. 登呂遺跡

1. 土地を所有する権利が農民に平等に与えられたことで、貴族の権力が弱まり、武士が台頭するきっかけとなった。	2. 土地の売買が完全に自由化されたため、貧富の差がなくなり、班田収授の法が円滑に運用されるようになった。	3. 土地の永代私有が認められたことで、貴族や寺社による大規模な私有地が形成され、公地公民制が崩れ始めた。	4. すべての土地を国が管理する方針が強化され、農民への口分田の割り当てがより厳格に行われるようになった。
--	---	---	---

1. 天武天皇 2. 推古天皇 3. 天智天皇 4. 聖武天皇

答え合わせ・解説

問1	答え 2 行基	行基は、当初は僧尼令に背いて民衆に布教したとして弾圧されましたが、橋の建設やため池の整備といった社会事業を通じて民衆から絶大な支持を得ました。聖武天皇は、東大寺の大仏造営に必要な膨大な労働力や資金を集めるために、民衆に顔が広い行基の力を必要とし、彼を大僧正として迎えて協力を求めました。
問2	答え 2 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色をもつ。	天平文化は奈良時代の最盛期である聖武天皇の時期に花開いた。遣唐使が中国の唐から最新の制度や仏教、芸術を持ち帰ったため、大陸的な影響を強く受けている。正倉院の宝物にはペルシャ風の楽器やガラス器が含まれており、当時の日本が世界的な文化交流のネットワークの中にあつたことを示している。
問3	答え 4 主に東国の農民から選ばれ、国防の重要拠点であった九州北部の警備にあたった。	防人は、当初は全国から集められましたが、後に主に東国（現在の関東地方など）の農民がその任にあたることとなりました。派遣先は太宰府の管轄下にある九州北部であり、家族と離れて遠方の国境を守るという重い負担は、当時の農民を苦しめる要因の一つとなりました。東北の蝦夷対策にあたったのは主に「鎮守府」などに配属された兵士であり、防人とは区別されます。
問4	答え 2 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。	風土記は、中央から派遣された国司がその国の情報をとりまとめたものです。朝廷が各地域の資源や文化を把握しようとした目的が背景にあります。一方で、日本書紀や古事記は天皇中心の国家形成の正当性を説くための歴史書であり、記述の対象や目的が異なります。
問5	答え 1 口分田	律令制度のもとでは、政府が国民を管理するために戸籍を作成し、それに基づいて「班田收授法」という仕組みを運用しました。このとき、人々に分け与えられた土地が口分田です。口分田を与えられた人々は、その対価として収穫の約3%を「租」として納める義務を負い、本人が死亡した際には土地を国に返還することが定められていました。
問6	答え 4 万葉集	奈良時代の貴族である大伴家持などが編纂に関わったとされる資料です。同時期には日本最古の漢詩集である『懷風藻』も作られましたが、和歌集としてはこの作品が最古となります。のちの平安時代に編纂される『古今和歌集』などとは、表記方法や収録された歌の詠み手の範囲において大きな違いがあります。
問7	答え 2 風土記	713年に出された編纂の命に基づき、郷土の地理や産物、言い伝えなどを国ごとにまとめた地誌です。律令国家としての地方支配を強めるため、中央政府が各国の状況を詳細に把握する目的で作られました。現在は出雲国（島根県）のものがほぼ完全な形で残っているほか、数カ国の写本が伝わっています。
問8	答え 4 聖武天皇は、仏教によって国家の安泰を願うため、平城京に東大寺を建立し、全国に国分寺を設けた。	国分寺の建立や東大寺の大仏造立は、奈良時代の聖武天皇による事績です。桓武天皇は平安時代の始まりを築いた天皇であり、行基は聖武天皇の時代に民衆への布教や大仏造立への協力で活躍した僧侶です。推古天皇は飛鳥時代の天皇であり、時代背景や政策の主体を正確に区別する必要があります。
問9	答え 2 天皇の家系や中央政府の正統性を裏付ける国家の歴史	風土記はあくまで地方ごとの自然環境や文化、資源を記録した「地理書」としての性格を持っています。天皇の系譜や国家の成り立ちといった公式な歴史をまとめたものは「古事記」や「日本書紀」であり、地方の状況を報告させる目的で作成された風土記とはその役割が区別されています。
問10	答え 3 古事記・日本書紀	奈良時代には、国家としての正当性を示すために大規模な歴史書の編纂が行われました。天武天皇の発案から始まり、後に完成した『古事記』と、漢文で記された正史である『日本書紀』がその代表です。選択肢にある『源氏物語』などは平安時代の文学作品であり、歴史書ではありません。
問11	答え 2 菅原道真	菅原道真は、唐の衰退と往復の航海に伴う命の危険を考慮し、遣唐使の中止を提案しました。これにより、日本は大陸からの直接的な影響を受け続ける時期を終え、それまで取り入れた文化を日本人の感性に合うよう消化させた「国風文化」が発達する大きなきっかけとなりました。
問12	答え 2 正倉院	聖武天皇の死後、光明皇后がその遺愛品を東大寺に納めたことが始まりです。校倉造という高床式の構造により、湿気などから宝物が守られてきました。法隆寺金堂は世界最古の木造建築群の一部、登呂遺跡は静岡県にある弥生時代の遺跡です。
問13	答え 3 土地の永代私有が認められたことで、貴族や寺社による大規模な私有地が形成され、公地公民制が崩れ始めた。	律令国家の基本原則である「公地公民」は、すべての土地と人民は天皇（国家）に帰属するという考え方でした。しかし、墾田永年私財法によって私有地（墾田）が認められたことで、財力のある貴族や寺社が大規模な開墾を行い、自分の土地を広げるようになりました。これが「荘園」と呼ばれる私有地の形成につながり、国家による土地支配体制が揺らぐこととなりました。
問14	答え 4 聖武天皇	奈良時代、相次ぐ災いや混乱を収めるために、仏教を重んじる政治が行われました。聖武天皇は全国に国分寺・国分尼寺を建てることを命じるとともに、その総本山的な役割を持つ東大寺に、国の平安を願って大仏を造立しました。